

1 研究主題

自ら学び、考えを広げ深める児童の育成  
—対話的な学びのある授業づくりを通して—

2 主題設定の理由

本校では、学校の教育目標「気づき、考え、よく動く児童の育成」の下、目指す児童像を「はきはき元気な拝志の子」「いつもやさしい拝志の子」「しっかり学ぶ拝志の子」として、日々の教育活動に取り組んでいる。

昨年度は、新学習指導要領の全面実施に向け、プログラミング教育、外国語活動を柱に、協働的な学びの場を各教科に位置づけ、主体的に学びを深める児童の育成に当たってきた。その成果も表れ、児童の主体性が向上し、協働的な学習の中で、自ら学ぶことができる児童が育ってきた。しかし、児童の学びの深化や表現力への課題も見えてきた。

そこで、今年度は、児童一人一人の「学びの質」を高める授業づくりに取り組んでいきたいと考え、本主題を設定した。目指す児童の姿及び活動のめあての明確化を図りながら、様々な対話的な学びの中で、考えを形成したり再構築したりする経験を積み重ねていくことで、主体的に学び、考えを広げ深め、豊かに表現し伝えていける児童を育成していきたいと考える。また、前年度と同様、プログラミング教育・外国語活動を柱に授業研究を行い、「対話的な学び」の論理研究をはじめ、「対話的な学びのある授業」の在り方について研究を深め、現代の教育ニーズに応える指導力の向上を目指していきたい。

3 研究の仮説

各教科、領域において、児童が主体的に学ぶための課題設定や、教材の工夫をするとともに、その主体的な学びの中で、自分の考えを形成、再構築できる対話的な学習の場を効果的に位置づけることにより、主体的に考え、自分の考えを広げ深める児童が育つであろう。

4 研究の内容

- (1) 児童の対話的な学びの場面設定の工夫及び単元構成における効果的な位置づけ
- (2) 「学びたい」「伝えたい」という意欲を高める課題提示及び教材の工夫
- (3) 学びの成果を実感し、次の学びにつなげることのできる評価活動の工夫

5 研究組織

